

好きなことなくても焦らず

引退後初帰郷 松本薫さん 高校生に講演



二〇二二年ロンドン五輪の柔道金メダリスト、松本薫さんが二十一日、引退後初めて金沢に帰郷し、第一学院高校金沢キャンパス（金沢市堀川新町）で「なりたいたい自分になるために」をテーマに講演した。学生時代、明確な夢や目標がなかったと振り返り、「好きなことがなくとも焦らないで」と呼び掛けた。

なりたいたい自分になるために大切なことが三つあるという。まず、「なりたいたい自分を口に出して、耳から聞かせる。ノートに書いてもいい」。そして、「流されずに、行動に責任を持つ」。さらに「感謝」を忘れない。

松本さんは中学時代、道場の先生に東京の高校進学を勧められた。断れずに入学したが、柔道の練習に乗り気になれないまま過し、金沢に戻った。当時、考えずに行動したことで周りに迷惑をかけたと思ひ、「行動には責任を取ろう」と決意したという。



①「夢に向かって」と題し、高校生に講演をする松本薫さん。②講演の後、生徒にサインを書いて記念撮影する松本薫さん。③講演の後、生徒と記念撮影する松本薫さん（右から2人目）。いずれも金沢市の第一学院高金沢キャンパスで

第一学院高 自身振り返り呼び掛け

決意は「お母さんを五輪に連れて行く」という目標が変わった。目標は金メダルで達成したが、「自分にとって柔道は何なのか」は分からなかったという。

二度目の一六年リオデジャネイロ五輪で分かった。「私、あんまり柔道好きじゃなかったんだ」。好きなことを仕事にしながらも、なりたいたいものになれる。松本さんは生徒たちに、そう訴えた。

小学校の卒業文集の「将来の夢」に「柔道でオリンピック選手になる」と書いた。実は「アイスクリン△屋さん」と書くことも思ったという。どちらの夢もかなったが、なりたいたい自分を「一体に覚えさせた」結果だと思っている。今の夢は「一つでも笑顔を見られる空間をつくること。世界中を笑顔にできるアイススクリームを届けたい」。

講演を聞いた二年生の岩本愛夏さん（も）は「感動した。私も松本さんのように、ポジティブな自分になりたい。人のためになることを、やりたいたいと思った時に進んでやるようにしたい」と話した。（寺田純）

